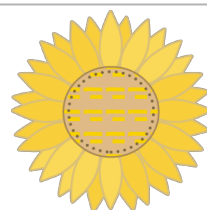


ひまわり



脳卒中後遺症に対するボツリヌス療法

NHKのTV番組「ためしてガッテン」にて、脳卒中の患者さんに対する**ボツリヌス療法**が紹介されました。以降、多くの問い合わせをいただいているこの治療法について当院神経内科の河野(こうの)先生にお話をお伺いしました。



Q. どのような治療法なのでしょう？

A. 脳卒中の後遺症のひとつに痙縮（けいしゅく）という症状があります。痙縮とは運動を司る中枢神経の障害により筋肉が過剰に緊張しまっている状態のことです。痙縮により関節の可動域が制限され、衣服の脱着や歩行などの日常生活が不便になります。この痙縮をボツリヌスという毒素で治療するのがボツリヌス療法です。痙縮によって制限されていた手足が動くようになり、手足の「つっぱり」が緩和されて着替えなどの動作がしやすくなったりする効果が期待できます。

Q. 「ボツリヌス毒素」ってなんですか？

A. ボツリヌス毒素とは、ボツリヌス菌が作り出す神経毒素で、神経から放出される伝達物質をブロックして筋肉の収縮を弱める作用を持ちます。ボツリヌス療法では、過剰に緊張した筋肉にこの毒素をごく少量注射することによって痙縮を治療します。毒素であることには間違いありませんが、治療に使用するものは、医薬品としてしっかりと調製され厳格に管理されていますので、心配することはまったくありません。



付属病院 神経内科
河野 豊 先生

Q. この治療法で注意する点はどのようなことですか？

A. 注意していただきたい点が2つあります。まず、この治療は**麻痺に対する治療ではなく、あくまで痙縮の治療**であるという点です。痙縮が緩和されて、制限されていた手足が動くようになることはありますが、もともと麻痺によって動かない手足が動くようにはなりません。また、**治療効果はずっと続くものではありません**。効果は通常は3～5ヶ月程度持続しますが、時間とともに薄れていきます。したがって、効果を持続させるには繰り返して注射する必要があります。

Q. 副作用はありますか？

A. 重大な副作用はありません。最も多い副作用は注射した筋肉の脱力ですが、これは副作用というより、注射の効果ともいえます。薬の効果が薄れるのとともに、脱力も改善します。投与する量を調整することによって対処することができます。

Q. 茨城県立医療大学付属病院でこの治療を受けることができますか？

A. はい。当院では**外来で行うコース**と**入院で行うコース**があります。どちらのコースで治療を行うかは、外来で症状を見しながら相談して決定します。入院で行う場合は、このボツリヌス療法と2週間の入院リハビリテーションを組み合わせることで行うことが可能です。痙縮の治療には注射だけではなく、リハビリテーションにてこれまで制限されていた関節の可動域を改善させてあげる必要があります。リハビリテーションを組み合わせることで、ボツリヌス療法の治療効果を最大限に引き出すことができます。

Q. この治療を希望する場合や担当医と相談したい場合は、どのようにしたらよいでしょうか？

A. まず、現在通院中の医療機関の診療情報提供書をご用意ください。そのうえで当院の予約デスク（電話 029-888-9201）にて「脳卒中のボトックス治療希望」とお伝えいただき、外来診察の予約をおとりください。外来にて担当医がこの治療ができるかどうか、どのような効果が望めるか、治療プランなどについて、患者様と一緒に検討させていただきます。なお、症状によっては治療できない場合もございますので、ご了承ください。

Q. 治療費が心配なのですが…。

A. 痙縮に対するボツリヌス療法は健康保険が利用できる治療法です。具体的な治療費用はご加入の保険の種類や治療内容によって異なりますので、外来受診時に当院の医療相談室にてご相談ください。

Q. よくわかりました。最後にひとことお願いします。

A. ボトックス療法は脳卒中後遺症に対する比較的新しい治療法です。痙縮に対しては、大変有効な治療法ですが、「麻痺が治る」といった誤った理解で治療を受けると、がっかりする結果にもなります。正しく理解していただき、ひとりでも多くの患者様にこの治療の恩恵を受けてもらいたいと思っています。





第6回 リレーエッセイ



第6回リレーエッセイを担当するリハビリテーション部理学療法士の榎本です。
今回は当院で行っている「ご家族向け講習会」についてご紹介します。

この講習会は、ご家族様が基本的な体の構造や介護技術などを学ぶことで、
リハビリや介護方法を少しでも理解しやすくすることを目的に、今年度より
試行的に開始しています。

内容は、骨や筋肉に関する講義を2日、ストレッチや動作に関する実技を1日、
計3日間行います。講義は資料を見ながら代表的な骨16個、筋14個について、
実技はストレッチや起居動作について学びます。実技では、お互いにストレッチを
行います。相手に行う際には、相手に余計な力が入らないよう自分が安定した姿勢
をとること、両手でしっかりと足を支えること、相手の様子を見ながら無理のない
範囲でゆっくりと筋肉を伸ばすことが重要です。相手に行う体験を通して、力加減
や相手とやりとりすることを学びます。他にも普段何気なく行っている立ち上がり
動作が、ちょっとしたことで行いやすくなったり行いにくくなったりすることを
体験し、立ち上がる際の重要なポイント等を学びます。

7月と9月に行い、計12名の方にご参加いただきました。
参加されたご家族様は皆様熱心で、「リハビリや介護に役に立
つと思う」「興味がわいた」などの感想を多くいただきました。
今後は、もっと多くの方に参加していただけるよう、わかりや
すく有意義な講習会を企画していきたいと思ひます。
開催予定は理学療法受付までお問い合わせください。



リハビリテーション部
理学療法士
榎本 景子 先生



ボランティア募集

当院では、ボランティアを行なってくださる方を募集して
います。下記のような内容で、定期的な活動の方は、週1回
以上継続して3ヶ月以上活動できる方を募集しています。

- ・ 火曜13:30～15:00 成人病棟 ステンシル
- ・ 水曜13:30～15:00 成人病棟 絵手紙
- ・ 水曜13:30～15:00 小児病棟 お誕生会
お楽しみ会
子供の遊び相手
- ・ 金曜13:30～15:00 成人病棟 書道（隔週）
- ・ 屋上庭園の植物の世話
- ・ 裁縫ボランティア

学生さんについては、長期の休みの間の平日の昼間の活動もし
くは年間行事でのご相談となります。活動をご希望の方は、ボラン
ティア推進委員長の遠藤までご連絡ください。
(029-888-9212)
オリエンテーションを行い、活動についてご相談していきます。

職員募集のお知らせ

あなた力をチーム医療に 生かしてみませんか！

チーム医療では、医師、看護師、リハスタッフ、
薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなど
すべての医療スタッフ（コ・メディカル）がお互いの
専門性を尊重し、最大限の能力を引き出し合う
ことによって最善の治療を患者様に提供します。

当院ではチームの一員として一緒に働いてくださ
る方を募集しています。現在、募集している職種
は以下のとおりです。

- ・ 看護師（非常勤）
- ・ 医療ソーシャルワーカー（非常勤）

ご興味のある方は病院管理課：梅井・秋葉
(電話029-888-9200) までお問い合わせください。

☆編集後記☆「○○の秋」：みなさんの○○はなんでしょうか。私は読書かな。ノーベル賞は取れなかったけど村上
春樹にはまっています。今号では「ボトックス療法」と「ご家族向け講習会」の記事を掲載しました。いずれも
当院で積極的に行っている内容です。多くの患者様やご家族のお役にたてれば幸いです。（YK）